



「名人と言われる方々がまだまだいる世界。上を目指したいです。」
職人としての腕を磨きながらも、三味線のプロフェッショナルとしてその裾野を広げていくことにも尽力したいという想いも強い



「演奏したい」 ——そんな気持ちを 押し出すものを作りたい



希望者全員に楽器を“プレゼント”する——そんなめっちゃくちゃな企画をしているスクールがある。しかもその楽器は、職人の工夫とこだわりの詰まった永く使いつづけることができる逸品だ。そんなスクールのプロジェクトに自らの技術と想いをかけて参加した人物がいる——三弦師昇平さん。三弦師とは、日本の伝統楽器である三味線を作る職人のこと。限られた条件の中で少しでもよいものを提供したいというその努力と苦悩、そして完成した喜び、そのすべての想いを語ってもらった。



三弦師
昇平さん 35歳

せて張るだけですが、犬皮はしっかりと引つ張つて張るんです。それだけ反響し良い音になる。音は楽器の大切な部分ですから妥協はできません。」と三味線の弦を弾いてその音色を聴かせてくれた。「この音の良さが分かる人は、さらに上の音を求めるはずで。できれば多くの人に上をめざして欲しい。それが三味線に関わる僕らの使命であり、願いです」。

初心者が使うからこそ、 こだわりのも

大人になるまでに三味線に触ったことがある、もしくは親しんできた、という人はどれほどいるだろうか。おそらくほとんどの人が、「三味線初心者」になるのではないだろうか。EYSでプレゼントする楽器の種類は数多くあるが、そのすべてにケースをはじめとした必要な付属品が付いている。もちろん三味線も例外ではない。「そうですね。やりたいと思った時に、初心者の方でも安心してすぐにスタートできる。それがEYSの特長ですから。」弦をはじくパチや胴につける竹製の駒などもすべて昇平さんが選んだ。

ケースは当初手揚げタイプだったが、通勤時に受講者が持ちやすいようにと肩に掛けるストラップをつけるなど、EYSからの細かい注文にも応えた。「多くの方にとってこの三味線は初めの一棹になると思います。ですが初心者はもちろん、大切に使うと頂ければ一生使ってもらえるだけの価値がつまっている二棹です。価値を知れば大切にできる。大切にできれば演奏を続けることができると思うんです」。

楽しく演奏することに ——それに応えるものを作る こだわりのも

三味線には、長唄三味線や津軽三味線をはじめ、常盤津三味線や新内三味線などさまざまな種類がある。中でも津軽三味線は伴奏より演奏の要素が高いそうだ。迫力のある音が出せるよう棹の太さや胴の大きさも比較的大きい。独特の素朴な音。それが津軽三味線の特徴です。和楽器にとらわれることなく、ポップスやジャズ、流行曲なども気軽に演奏したり、洋楽器とセッションしたりと、楽しめる要素は無限にあります。新しい魅力をどんどん発見して楽しんで欲しいですね。僕がつくる三味線もそれに応えるものでありたいと思っています」。



来校日に入会の希望者全員にプレゼント「津軽三味線セット」
こだわりのつまった津軽三味線、パチ、駒(竹製)、バッグ。すべてがセットになっているため、初心者でもすぐにスタートできる

グレーのパーカーにカーゴパンツ。カジュアルな服装に身を包み渋谷あたりをオシャレに歩く：そんなイメージの昇平さんが、伝統楽器である三味線の職人さんと聞いて驚く。もともと三味線に縁のある家に生まれ、小さな頃からあたり前のように三味線に親しんだ。「小さな頃はバイオリンを習ったり、スポーツに夢中になったり、普通に育ちました。大学を卒業し就職して、好きなことをしていたんです。」そんな彼が、三味線を生業(なりわい)にしようと思ったのは、26歳の時。既に三味線の仕事をしていた弟さんの、「一緒に三味線を盛りたてていかないか。」というひと言に職人になることを決意。そして、厳しい修行を経て職人となった昇平さんに、新たな出会いが訪れる。EYSとの出会いだっただ。

ひと月に13本も、 三味線をプレゼントしている!?

古くからの友人がEYSの社員だった事もあり、そこで初めて、楽器をプレゼントしているという企画を知る。「初めて聞いた時は、楽器をプレゼントしているという企画は、もちろんですが、プレゼントしている三味線がひと月に13本も出ていると聞いて驚きました。」つまり三味線を習いたい人が毎月そんなにも多くいる、ということに驚いたのだ。その事実にも「せっかくだらば、良いものを使って欲しい。そして良い音を奏してもらい、三味線の魅力をもっと知ってもらおうこと、裾野をもっと広げていけたら。」昇平さんは三味線の新しい可能性をそこに見いだしたのだ。

ビジネス魂と 職人魂の攻防

そこからEYSと昇平さんの戦いは始まる。良いものをプレゼントする。そのゴールは両者同じであることには変わりがない。しかし現実には厳しかった。まず立ちほだかったのが材料の調達だ。三味線には、固く緻密で比重の高い木材を用いる。中でも紅木(こうぼく)という種類が有名だが、材料の調達が難しい上、高級材料のため企画の条件的にも厳しい。そこでEYSの企業努力で中国から良質の花梨(かりん)を手に入れることに成功。花梨も三味線に用いられる良質の木材であるものの、今度は職人気質の昇平さんの目に叶うものをそろえることに難航した。——とはいえ、条件は限られていた。昇平さんは、材料一つひとつ吟味し、木材の使い方や大きさを工夫。1本の三味線ができるまで100以上もの工程があるそうだが、その二つひとつを見直し、演奏や音色に支障のないものを作り上げていく。EYSの求める条件の中で、いかに、職人の楽器を作るのができるか。こだわりの部分も妥協する部分もすべて自分の中に受け入れて、吐き出していく：それはビジネス魂と職人魂がせめぎ合う、ものづくりへの大きな挑戦だった。

中でも妥協しなかったこだわりのポイントがある。それは胴に張られている皮の部分にある。「津軽三味線は、胴の部分に犬の皮を張ります。この皮の張り具合で音色が決まると言ってもいい。安いものの中には合皮が使われているものもあります。合皮は乗

Information Interview

EYS音楽教室

TEL : 0120-978-900
(10:00~22:00)

プレゼント対象の楽器は他にも多数あります。
※詳細はお問い合わせください

〒160-0023東京都新宿区西新宿1-22-15
GRAPHIO西新宿2F/3F



JR新宿駅西口より徒歩5分



EYS 検索

Enjoy Your Sound
EYS MUSIC SCHOOL

——なぜ、楽器をプレゼントするのか。できるのか。 EYS音楽教室 吉岡社長に聴く

代表取締役
吉岡 秀和



やりたい!と思った時に
すぐに演奏できる

「みんなやりたい曲だけに参加しよう」という一言から始まった Yoko Online Band というバンドがあります。ト素人が2年後にはデビュー、2000人を集めるライブを開催した、EYSのベースとなった伝説のプロジェクトです。あくまでも自分の好きな曲を好きな楽器で演奏する。その時、楽器は持っている人が貸したり、プレゼントしたりしていたんです。『やりたい!と思った瞬間、すぐにスタートできる』。EYSでもそんな環境を作りたいなと思ったんです。

■ 楽器は、無価値なもの

楽器は、丹精込めて作り上げたもので、無価値。であるべきなのと私は考えています。大切なのは、「演奏や歌など音楽によって生まれる感動やシーン」であり、決して楽器や楽譜そのものではないんです。EYSでは楽器や楽譜などすべて受講者には仕入れ値で提供しています。楽器を売って利益を得るといふ物販はしない。楽器は差し上げるもの、もらえるもの、という考えから、『楽器をプレゼントする』という発想になったんです。

■ 初心者のうちは
楽器を買わない

私共は、初心者のうちに楽器を買うものではないと思っています。粗悪品をつかまされる事もある。さらに言えば演奏に自信がついても高価なものをいきなり買うべきではないです。楽器は奏でて初めて、人々のハートを動かすもの。そんなシンを作る楽器は演奏者にとってずっと愛着が持てる。大切にできるものでありたいのです。それが、プレゼントといえども粗悪品ではなく、『こだわりのつまったものをプレゼントしたい』という想いに行きます。

■ こだわりの逸品を
プレゼントする

とはいえず実現のハードルは高かったですね。条件の下で交渉するためには、交渉力だけでなく企業力も必要です。数年にわたり、昇平さんのような職人さんをはじめ、ファンや海外の協力・支援、多くのスタッフの知恵と工夫を駆使してようやくこだわりの逸品を提供できるシステムが整いました。このプロジェクトに賭ける。執念。が成し得た結果だと思えます。この楽器を手にして一人でも多くの人に、新たな感動が生まれることを願っています。